

## 令和4年度 東京都立芝商業高等学校 学校経営報告

東京都立芝商業高等学校長  
大林 誠

創立98年を迎えた本校は、①基礎学力の定着を促す学習の充実、②一人1台端末を活用した新しい授業の取組、③地域や多くの企業等と連携したビジネスを体験的・実践的に学ぶ場の提供、④資格取得や学習成果の発表を奨励し、生徒の自己肯定感を高め、達成感が感じられる取組を展開してきた。

本年度は新型コロナウイルス感染症に対する感染防止策が徐々に緩和されたこともあり、修学旅行やインターンシップの実施、連携先である福井県池田町への訪問など、かつて行われてきた行事を実施することにより生徒の活動の幅を広げることができた。また、9月から通級による指導が始まり、生徒や保護者の教育的ニーズに応じて、合理的配慮や個別指導計画を基にした更なる支援を行うこととなった。

一方、一次募集では、応募者数が募集人員に及ばなかったものの、二次募集では募集人員を超え、7年ぶりに定員を満たすことができた。次年度は、中学生や保護者に対しビジネス教育を核とした本校の魅力発信を工夫して、広報体制を再構築する必要がある。以下に、令和4年度の取組とその成果及び課題等について報告する。

## 1 今年度の取組と自己評価

## (1) 教育活動への取組と自己評価

	取 組	自己評価
学校経営 (学校運営)	(1) 募集広報活動について、中学校訪問の実施など全校体制で募集広報活動を実施した。 (2) 中高連携、高大連携、企業連携等外部人材のもつ多様な教育力を有効かつ継続的に活用し取組んだ。 (3) 生徒等の個人情報について、規定を遵守し職員相互による点検・確認等を徹底し、無事故を達成した。 (4) 働き方改革を推進し、勤務終了後や週休日等の留守番電話導入など校務改善に取組んだ。	(1) 3年ぶりに中学校訪問を再開し、中学校へ本校の施策やビジネス教育の魅力を伝えることができた。 (2) 多くの授業で外部講師を招いた特別授業を展開しビジネスの魅力や奥深さを伝えることができた。 (3) 採点分析システムの活用により、答案紛失による事故を防止し、同時に採点業務の効率化を図った。 (4) 安全衛生委員会及び産業医を活用して労働環境を整備し、校務改善に取り組んだ。
学習指導	(5) 一人1台端末の積極的な活用や、デジタル機器の効果的な活用等により基礎学力の定着を図る。 (6) 教員のICT活用スキルの向上のため、ICT支援員の指導の下、年10回の研修を実施した。 (7) 観点別評価の定着と充実のため、校内研修を実施し、評価分析及び評価上の課題の共有を図った。 (8) 新しい教育課程の円滑な実施と共に身近な課題と教科とを結び付ける課題解決型学習を展開した。	(5) タブレットやICT機器の活用により、学習への意欲を高め、自ら進んで学習する習慣を醸成。 (6) ICT機器を用いた教員の指導スキルの向上により、指導の幅を広げ、分かりやすい授業を展開。 (7) 観点別評価に関する教員研修を実施し、各教科の評価改善に向けての課題を教員間で共有した。 (8) 知識の関連付けや課題を基に解決策を考えさせる学習を展開し、生徒の課題解決能力を育成した。
生活指導・進路指導	(9) 心身ともに健やかな成長を促進するため、SC等と連携し、安心して生活できる環境を構築した。 (10) 時代に即した指導の在り方を検討し、生徒が主体性をもって行動できるよう校内環境を整備した。 (11) さまざまな進路行事や進路指導を通して、組織的・計画的に実施し、進路活動の支援と充実を図る。 (12) 国際ロータリーと協働したインターンシップ、地域・企業との連携により職業観や勤労観を育成。	(9) 特別支援委員会を活用して要配慮生徒への早期対応や通級指導を実施し個別支援体制を構築した。 (10) 校則の自主点検を行い、生徒代表、保護者代表を交えて校則見直しの場を設けた。 (11) 組織的・系統的な進路指導やキャリア教育推進に向けて、進路活動の支援と充実を図った。 (12) 2年生対象にインターンシップを実施し、実地の職業体験を通して望ましい職業観を醸成した。
特別活動・その他	(13) 集団生活での規律ある行動力育成のため、校内での教育活動が連動するように創意工夫する。 (14) 共生社会の一員としての自覚を深めるため、多様な人々との交流活動を実施した。 (15) 地域と連携した体験的・実践的な防災教育、非常時電力供給を企業と連携し災害対応力を強化。 (16) 自律経営推進予算執行計画に基づきスピーディに予算執行し、教育環境の整備等に取り組む。	(13) コロナ禍での行事運営の工夫や、部活動の活動時間延長など生徒の活動を充実させることができた。 (14) 1年生対象にがん教育を実施し、生命尊重の精神や健康の大切さを伝えることができた。 (15) 港区総合支所、芝消防署と連携して防災訓練を実施。今後さらなる取組の充実を図る。 (16) 予算の組み替えにより必要な時に必要な予算執行をタイムリーに実施することができた。

## (2) 重点目標への取組と自己評価

取 組	自己評価
①組織的・計画的な学校説明会や体験入学、出前授業等の実施、本校の特色を効果的に広報する手段の検討。	①生徒によるビジネスマナーの実施、出前授業や中学校での説明会など中学校の要望に誠実に対応した。
②竹芝地区エリアマネジメントや福井県池田町等と連携し、実践的・体験的な学びの場を提供。	②エリアマネジメントとの連携の他、池田町（福井県）を直接訪問し交流を再開した。
③「ビジネス基礎」「ビジネスアイデア」「課題研究」の充実・改善を図り、創造的、実践的な資質を育成。	③今後の課題を整理し、企業等と連携した探究活動の充実と学年連携の在り方など改善・充実を図った。
④一人1台端末や学校図書館の効果的活用により、自学自習時間及び読書時間の増加を図った。	④関心をもった事柄を自ら調べ、知識を深めることで、主体性をもった学習を推進し、理解度や意欲を向上。
⑤生命を尊重する視点に立ち、予見・予防型の生活指導により体罰やいじめのない環境を構築。	⑤SCとの連携により予見・予防型の生徒支援体制を構築。特にSNSによるいじめに備え指導体制を充実。
⑥ビジネス GP を活用して資格取得を励行し、成果発表を通じて、進路実現や挑戦する意欲の醸成を図る。	⑥資格取得の励行を図るとともに、上級資格へ挑戦する生徒の指導体制や希望進路実現に向けた体制を整備。
⑦TGGや英国研修への参加等を促進し、豊かな国際感覚等を醸成して国際人としての素養を育成。	⑦3学年でTGG研修を実施、専門高校生海外派遣研修を通じて異文化理解に関する学習を充実させた。
⑧校内外でさまざまな交流活動を展開して人間関係を構築させ、協調性やコミュニケーション能力を育成。	⑧生徒が主体的に発表する場や地域・企業との連携の場を充実させ、コミュニケーションスキルを育成。

## (3) 数値目標の達成状況

	項 目	目 標 ※( )は昨年度	実 績
入学時	A 推薦の基づく選抜の倍率	1. 5倍以上 (1. 13倍)	1. 20倍
	B 学力検査に基づく選抜の倍率	1. 0倍以上 (0. 55倍)	0. 90倍
在学时	C 自律経営推進予算の執行率	100% (97. 5%)	98. 6%
	D 入学満足度	80%以上 (71. 2%)	73. 5%
	E 教育相談満足度	80%以上 (77. 1%)	77. 2%
	F 家庭等学習時間30分未満生徒	30%以下 (57. 1%)	56. 6%
	G 不読率	30%以下 (51. 2%)	53. 4%
	H 進路指導満足度	100% (89. 8%)	88. 5%
	I 全商検定1級合格者	50名以上 ( 36名)	39名
	J 部活動加入率	100% (87. 1%)	87. 8%
卒業時	K 進路決定率	100% ( 100%)	96. 0%

## 2 次年度以降の課題と対応策

課 題	取 組 例
①脱コロナに向けた学校運営体制の改善・充実	①時差登校の解消、授業時間の確保により、早期にコロナ前の学校運営体制へ戻すことで改善・充実を図る。
②新学習指導要領の趣旨の実現に向けた教育活動の充実・発展	②教科横断的な学習の推進、観点別評価の充実、採点・分析システムの活用による事後指導の充実。
③連携事業の充実・発展	③実社会での課題発見・課題解決に向けた視点から、地域、産業界、大学との連携の推進。
④学習指導の改善・充実	④一人1台端末を活用した学習モデルの構築、ICT機器の活用による授業展開の改善・充実を図る。
⑤生活指導の改善・充実	⑤生徒や保護者代表と校則の共通理解の場を設け、生徒の進路先を見越した生活指導について理解を図る。
⑥進路指導の充実	⑥生徒の希望進路に対応した丁寧な指導と指定校の推薦基準に適応した系統的な学習指導の充実を図る。
⑦広報募集活動の改善・充実	⑦学校ホームページ、校長ブログ、学校掲示板を活用して本校の教育活動を積極的に広報する。
⑧ワークライフバランスの推進	⑧在校時間把握、超勤者指導・相談体制構築、産業界との連携、年休15日以上及び夏休100%を推進する。